

6月1日火曜日の4限目に狩野先生がご担当のキャリア開発演習Ⅱの授業を拝見しました。主に公務員を目指す学生さんが受講者のこの授業では、テキストに『東京都・特別区[I類] 教養・専門試験過去問500』を使っています。今回の狩野先生ご担当の授業では「日本史」分野を扱いました。このテキストに掲載されている問題は、選択肢の中から正答を選ぶ選択形式の問題で、選択肢の文章が長いうえに、それぞれの選択肢に対応する解説文も長いため、正答にたどりつくことが非常に厄介な問題集ということがいえます。狩野先生がどういった手さばきで授業をコーディネートしていくのか、大変な関心を持って授業に参加させていただきました。

狩野先生は、まず各設問の受講者に選択肢をひとつずつ読んでもらいました。選択肢をひとつ読むたびに、その選択肢に対応する解説を読み、仮にその選択肢が誤答であるならば、どこが間違っているのかをその都度確認させました。そして解説によって正しく修正された選択肢を暗記します。選択肢が設問の正答であるならば、修正をせずにそのまま暗記作業に移ります。5つの選択肢の中から正答を選ぶ設問ならば、こうしたプロセスを5度繰り返します。そして全ての選択肢の確認と暗記が終了した後、今度は設問を黙読しながら確認と暗記を繰り返します。修正された選択肢を、ひとつひとつ風潰しに暗記してゆく展開は、さながら問題集を丸ごと体に刻み付けるようでもありました。

数をこなしてその場限りとなってしまう記憶として何も残らない授業がある一方で、今回の狩野先生の授業のようにひとつひとつの問題を、きちんと理解し、記憶してゆく授業は、公務員になりたいという受講生の夢の実現に資する授業だということが認識できました。総長先生からも高評価を頂いたこうした授業を、ぜひ自分のものとしてできるよう日々研鑽を積んでいきたいと思いました。